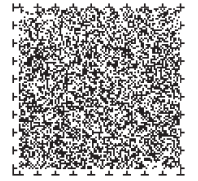


区市町村等の取組事例



「子供へのユニバーサルデザイン教育」取組事例①

出前講座（江東区）

取組内容

- 小学4年生を対象に、総合的な学習の時間を活用した交流学习
- 障害者の講話、体験学習、児童同士でのグループワークなどを実施
- 平成26年度は7校で実施、平成27年度は10校で実施

※取組の一例は以下のとおり

プログラム	具体的な取組例
障害者の講話	どんな時に助けを必要としているか、まちなかにユニバーサルデザインのどのような工夫がされているか、などについて
体験学習	・当事者の使う身振り、手話、空書きなどを使った伝言ゲーム ・目隠したボックスの中にある牛乳とジュースのパックの違い(切欠き)を触って当てるゲーム
グループワーク	ワーキング形式で、障害者や高齢者、妊婦など8人の人物カードを渡し、エレベーター・エスカレーター・階段を誰が優先的に使ったらよいか等を考える

学習の実施方法

- 学習内容については、平成22年度から25年度まで区民協働ワークショップで議論を重ね検証を実施
- 平成26年度からは、地域住民や障害者等で構成される「やさしいまちづくり相談員」が講師となって各小学校を訪問

取組のポイント

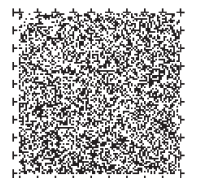
- 学習の内容については、相談員と事務局（区）で事前に確認するとともに、各出前講座終了後に振り返りを実施し、話し合った内容を次回の講座に活かしている
- ワークショップや講座当日には、アドバイザーとして学識経験者に毎年参加を依頼
- 毎年、年度初めの校長会で実施を希望する小学校を調査、募集
- 小学校との事務的な調整は事務局のみで行い、出前講座の具体的な内容等の調整は相談員のコアメンバー3人とともに行う
- 開催日時の調整に当たっては、事前に学識経験者が参加しやすい日程を確認
- 相談員のコアメンバーが必ず出席できる日に実施
- 出前講座当日は相談員が主体となり進行
- 相談員は障害者が多いため、事務局がパネルの設置やいすの配置などの準備を実施

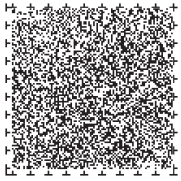


学習内容を考えるワークショップ



体験学習当日の様子





「子供へのユニバーサルデザイン教育」取組事例②

福祉部と区民の協働による総合的な学習の時間支援事業（大田区）

取組内容

- 小中学校の総合的な学習の時間を活用し、体験活動等を通じた障害者理解の取組を実施
- 当事者の講話や、白杖体験、ガイドヘルプ体験、車いす体験、手話体験等に加え、希望する一部の学校には、ワークショップ形式で、模擬体験などを通して知的障害者についての共感と初歩的な知識等を学ぶための取組も実施

※知的障害者の理解促進のための取組例

体験事例	目的
両手に軍手をはめ、決められた時間内(1分)に枠の中に小さなシールを貼る	知的障害者の立場に立って、難しいことをやる時の気持ちを体験してもらう
2リットルのペットボトルを半分に切り、そのまわりにラップを巻き、飲み口からパソコンによるスライドショーを見てもらう	一つのこと集中してしまうと、周りが見えなくなることがあると伝える
日常生活の中の母親とのやりとりを4コマ漫画にして見てもらう	わかりやすい伝え方を子供たちに考えてもらう

実施に当たってのポイント

- 学校との連絡調整、車いすの配送等は区が行い、講師の派遣を団体に依頼するなど、区と障害者団体（区民）がそれぞれの役割を決め、協働で実施
- 子供の集中が切れないよう、講話の中には簡単なワークショップを取り入れている
- 子供たちに楽しく学んでもらうために、伝えるべきことはそのままにしながらも、子供の反応を見て、その都度内容を変更・見直しするなど、工夫を積み重ねている
- 知的障害についての理解促進を行う際には楽しく、わかりやすく教えることを意識

その他

- 参加者から、「知的障害がある方の感じていることを体験できる機会は貴重だった」、「障害があることについて、『かわいそう』だと思っていた子供たちが多くいたが、そうではないということがわかったようだ」といった声があった
- 平成26年度から、この事業で培ったわかりやすく伝えるためのノウハウ等を活用し、地域住民を対象とした「地域におけるユニバーサルデザイン実践講座」を実施中



白杖を使った当事者体験



当事者による講話

